

創立145周年

学校便り

令和3年度

No.2



進取

令和3年5月27日発行

阿久根市立阿久根小学校
27学級 児童数440名

コロナ禍 今こそ 子供の心に目を向けよう！

校長 深川 光久

5月に入り、子供たちも学校生活に慣れてきたようです。朝、元気よく挨拶をしてくれる子供たちも増えてきているようです。

さて、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、私たち阿久根市でも感染を身近に感じる状況になってきました。不安を感じておられる方も多いことでしょう。ご家庭での毎日の検温やマスクの準備等ご協力いただきありがとうございます。阿久根小学校でも換気、手洗い、3密を避けるなど予防対策を日々とっているところです。

今回は、新型コロナウイルス感染症が及ぼす心への影響について考えてみたいと思います。学校では、新型コロナウイルス感染症に伴ういじめや差別等が発生しないよう、日頃から子供たちに指導しています。もし、自分や自分の家族が感染してしまったら、それだけで家族全員どれだけ大きな不安を抱えることになることでしょうか。そのような不安の中で身近な人に差別的な言葉を浴びせられたり、うわさが届いてきたりすれば心がとても傷付いてしまいます。新型コロナウイルス感染症を人事でなく自分事として考えることが大切です。



そこで、感染していない今、自分や自分の家族が感染したら、どうするか考えるとともに、自分の家族以外の身近な人が感染したときに、自分たちは何をすべきなのか。何をすべきではないのか。何を言うべきでないのかを家族でもぜひ話し合う時間をつくってください。学校でも家庭でもそんな話を具体的な言葉や行動で話し合うことが、いざ身近な場所で発生したときに正しく判断し、行動し、誰も傷つけない正しい行動につながってくると思います。

見えないウイルスに対する不安は、大人も子供も同じです。誰もが不安を抱えています。大人だから、年齢を重ねているから不安を感じないということはありません。誰でも不安をもつと言うことは、誰でも差別的発言をするかもしれないということです。家族で事前に話し合っておくことで、大人も正しい態度を子供に示すことができます。大人が差別的な発言をしたり、うわさ話をしたりすれば、学校で必ず子供も同じ発言をします。自分の子供の心が傷付けられないように、自分の子供が友達のを傷付けてしまわないように、ぜひ新型コロナウイルス感染症が発生したときの心の持ち方を家族で話し合っただけであれば有難いです。

強雨時の下校について



今年は例年より早い梅雨入りとなりました。先日、雨が強くなってきたので、低学年の下校を遅らせました。このように天候によっては、子供たちの安全確保のために下校を遅らせることがあります。長い時間下校時刻を遅らせる場合は、連絡メールでお知らせします。直接お迎えに来られた場合は、安全が確保できますのでお引き渡しします。教室までおいでください。お迎えに来られたときは、安全確保のため、国道3号線での駐車と校内への車の乗り入れはおやめてください。祖父母の皆様がお迎えに来られる場合もお伝えください。よろしく申し上げます。